

# 第1回検討会で頂いた主なご意見と 対応方針について

## 視点① わかりやすい維持管理計画策定ガイドライン

委員意見	対応方針
●適切な維持管理計画に対応したボリュームにすることが大事である。	●内容にメリハリをつけるとともに、施設によっては維持管理計画に準ずるあるいは参考となるマニュアルや指針等が整備されているので、それらを紹介して内容を省略し、ボリュームを圧縮する。
●新設と既設を分けて整理した方が良い。	●現行の手引きは新設を対象とした内容であったが、ガイドラインでは既設にも対応した内容とする。また、施設の実態に即したものとなるように解説する。
●長寿命化を考える上で供用期間の設定は重要である。	●供用期間を設定するにあたっての留意点を示す(港湾計画、物理的寿命、社会的影響やニーズなど)。
●現行の手引きに示される内容(劣化予測など)は高度な技術力を要するので理解しにくく、実践は困難である。	●図表や箇条書きを適宜用いて、作成し易く利用し易い内容とする。 劣化予測に関してはマルコフ連鎖モデルによらない簡易な方法等も紹介する。

## 視点① わかりやすい維持管理計画策定ガイドライン

委員意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外形的基準に基づき、維持管理計画策定レベルを分けることは誘導しない方が良い。また、維持管理計画策定レベルの設定の判断や使い分けが不明確である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持管理計画策定上の分類について、「点検診断ガイドライン」で新たに設定された重点点検診断施設と通常点検診断施設と、現行の維持管理計画書策定レベルの整合を図り、設定の目安を示す。 <b>資料2-1 ご議論頂きたい主な項目②</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合評価に関する定量評価手法を示すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合評価の定量的手法に関しては、地域ごとに不確定な要素が多く、検討にかかる負担が大きくなるため、本ガイドラインで明記するのは現時点で適切でないと考える。 長崎県で採用している、劣化度と社会的影響度の定量評価手法や、対策コストの算出方法は良い事例なので、本ガイドラインの参考資料にて紹介する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 完成図面や設計図書の確実な保存を喚起すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本ガイドラインにて関係図書の保存を喚起する。</li> </ul>

## 視点② 維持管理計画書の役割や予防保全計画等との関係

委員意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>●維持管理計画書の役割と意義、予防保全の定義と考え方を明示する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガイドラインの「総論」に、維持管理計画書の役割と意義を示す。また、予防保全など、維持管理計画に関する用語の定義や意味等を示す。 <b>資料2-1 ご議論頂きたい主な項目①</b></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●港湾計画や予防保全計画との関係やストックマネジメントの考え方を示す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総論の中で、港湾計画や予防保全計画について概説し、維持管理計画との関係を示す。それらの計画の内容に関し、有用な情報があれば可能な限り維持管理計画に含めるように示す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●周辺の付随する施設(岸壁の場合、航路・泊地・防波堤など)の情報も維持管理を行う上で必要な情報である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●維持管理計画は付随する施設にも影響するので、有用な情報は維持管理計画に含めるように示す。</li> </ul>

## 視点③ 維持補修計画と補修費用の推計

委員意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"><li>●維持管理計画書の目的がライフサイクルコスト最小化とならないよう、ライフサイクルコストの取り扱いは慎重にすべきである。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●港全体の予防保全計画において維持管理の優先度を検討する際には、個別施設の重要度とともに、補修の方法や頻度を踏まえた補修費用の目安となる情報が必要と考えている。補修費用の推計は必ずしもライフサイクルコストの最小化を目指すことを目的としたものではない。</li></ul> <p>資料2-1 ご議論頂きたい主な項目③、⑥</p>